

I'M HERE PROJECT | ATSUSHI WATANABE

“MONUMENT OF RECOVERY”

アイムヒアプロジェクト—渡辺篤
「修復のモニュメント」



2020年6月1日[月]～7月26日[日] 11時～19時 日曜定休
(最終日はオープン)

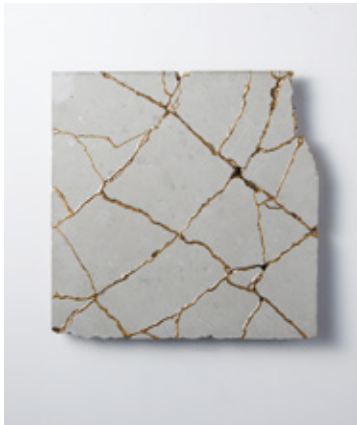
BankART SILK (横浜市中区山下町1番地シルクセンター内1階) 入場無料

2020.6.1 MON—7.26 SUN 11:00—19:00

BANK-ART SILK

「修復のモニュメント」[展覧] 2019年
©AtsushiWatanabe 2019.
@Im here project 2019
共同制作: S.F. 撮影: Keisuke Inoue
撮影助手: Ryoka Inoue

I'M HERE PROJECT



《被害者と加害者の振り分けを越えて》2019年
©AtsushiWatanabe2019
制作協力: 駒木崇宏 撮影: Keisuke Inoue,
撮影助手: Ryoko Inoue



《修復のモニュメント「卒業アルバム」》2019年
©AtsushiWatanabe2019, ©I'm here project2019
共同制作:T氏 撮影: Keisuke Inoue



《GAZE_01》2019年
©AtsushiWatanabe2019, ©I'm here project2019
共同制作: F氏 撮影: Keisuke Inoue,
撮影助手: Ryoko Inoue

「アイムヒア プロジェクト」は、現代美術作家の渡辺篤によって2018年発足した、孤立者に伴走する形で、その存在や声を社会に向けて発信するプロジェクト。ひきこもり当事者自らが撮影した部屋の写真を集めた写真集「I'm here project」は、その出版と展覧会で大きな反響を呼びました。本展もその延長線上にあり、二題のプログラムを進行させます。

《修復のモニュメント》

ひきこもり当事者/経験者6名が孤立に至った原因や生きづらさの事情について、渡辺篤と対話しながら、コンクリート製の記念碑を作るプロジェクト。碑を取って一旦ハンマーで破壊した後、陶芸の伝統的修復技法「金継ぎ」によって再構築する。見過ごされ、抑圧され続けてきた声の顕在化によって、伴走型の新しい当事者発信の形を模索する。

《被害者と加害者の振り分けを越えて》

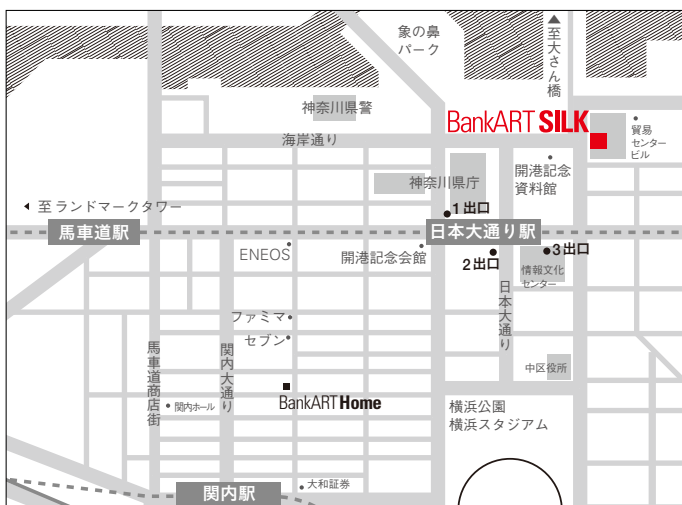
会場に敷き詰められたコンクリートタイルは、困窮者支援やケアの名の下であっても自動的に発生し続ける加害性やそれに対する自己批判の必要性について観る者に突き付ける。我々は自己や社会をどの様に再構築できるのだろうか。

渡辺 篤

2009年東京藝術大学大学院美術研究科修了。現代美術家。神奈川県生まれ。

学生時代から社会的タブーやマイノリティの存在にまなざしを向け、それらのテーマにまつわる社会状況を批評的に顕在化してきた。近年は、自身も経験者である「ひきこもり」の当事者たちとの協働プロジェクトを多数実施。当事者性と他者性、共感の可能性と不可能性などについて考察を深めている。主な個展に「ATSUSHI WATANABE」(Daiwa Anglo - Japanese Foundation、イギリス、2019年)、「わたしの傷/あなたの傷」(六本木ヒルズA/Dギャラリー、東京、2017年)等。主なグループ展に「ALONE TOGETHER」(STUK、ベルギー、2020年)等。主なプロジェクト展に「アイムヒア プロジェクト|まなざしについて」(高架下スタジオSite-Aギャラリー、神奈川、2019年)等がある。

活動は社会へ直接的な展開を見せ、福祉や精神科領域でのシンポジウム登壇や執筆等も多い。またマスメディアでの出演や掲載多数。



《七日間の死》2019年 ©AtsushiWatanabe2019 撮影: Keisuke Inoue 撮影助手: Ryoko Inoue

お問い合わせ | BankART 1929 office

TEL: 045-663-2812 E-mail: info@bankart1929.com

アクセス | BankART SILK (〒231-0023 横浜市中区山下町1シルクセンター1F)

みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩3分

会期: 2020年6月1日(月)~7月26日(日)(日曜定休、最終日はオープン)

開館時間: 11:00~19:00 入場料: 無料

新刊: 渡辺篤作品集『I'M HERE』 1,000円(税込)



ATSUSHI WATANABE